

(様式2-2)

令和6年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業 成果報告書

1 指定校 高松市立三溪小学校

2 実施の内容

(1) 研究主題 個を伸ばし、学び合う集団へと成長させる教育活動の推進
－「問い」と「振り返り」を基盤とした、主体的・協働的・創造的な学びの充実－

(2) 研究の具体

① 学校にこにこプロジェクト【いじめ防止・早期発見・早期対応】

ア 「なかまキッズ」(学級のなかまづくり推進委員)を核とした学級・学年・学校づくり

- ・計画的な「キッズ会議」の実施：学年間・異学年間での交流による取り組みの質的向上を図る
- ・学級の「なかまづくり目標」の作成、全校生での共有、「強めよう絆」月間のテーマや取り組みの計画

イ 子ども理解や個に応じた対応に係る知識・技能の向上

- ・SC・SSW等、専門機関や福祉機関を交えたケース会の実施
- ・有識者を講師とした、不登校やいじめ対応についての教員研修の実施

ウ 道徳教育の充実による人間性や社会性の育成

- ・「親切・思いやり」「友情・信頼」「相互理解・寛容」を重点項目とした、全校一斉道徳学習(保護者公開により啓発)

エ いじめ予防授業の実施

- ・「いじめ予防プログラム(トリプルチェンジ)」を教材とした全校一斉学級活動(保護者公開により啓発)

② 学校わくわくプロジェクト【児童にとって魅力ある学校づくり】

ア 委員会や学級・学年単位での「ふれあいイベント」の実施

- ・各委員会の特色を生かした創造的・協働的なイベントの企画・運営(あいさつ運動・花いっぱい運動・読み聞かせ・レクリエーション等)
- ・学級や学年の創造的・協働的な取り組みによる全校生対象イベントの企画・運営(みんなが楽しく、ふれあえる活動 ex. 図工作品を活用した迷路、「三溪の森」での秋の宝探し等)
- ・イベントコーナーでの心の交流(主催者・参加者双方の思いを掲示)：達成感や感謝等の相手意識の高揚

イ 縦割りグループやペア学年を核としたふれあい活動の推進

- ・ペア学年での「ふれあい運動会(ふれあい種目)」「日山登山」の実施
- ・縦割りグループでの毎月のふれあい遊びの実施
- ・縦割りグループでの「1年生を迎える会」「6年生を送る会」の実施

ウ 「なかまキッズ」(学級のなかまづくり推進委員)を核とした学級・学年・学校の絆づくり

- ・計画的な「キッズ会議」の実施：学年間・異学年間交流により質的向上を図る
- ・代表委員会への参加：「1年生を迎える会」等の児童会活動について相互尊重に基づく関係構築の視点から提言

3 成果

(1) 児童生徒の自発的・主体的な活動の様子

① 「なかまキッズ」(学級のなかまづくり推進委員)を核とした学級・学年・学校づくり

ア 「キッズ会議」での学びを学級のなかまづくりの取り組みに生かす

※「キッズ会議」：学期に1回、昼休みに開催。なかまキッズ担当の人権・同和教育主任が主催。各学年の教員代表も参加。学年間・異学年間での交流を通して仲間づくりに対する意識向上や実践化への意欲化を図る。

各学級の実践について学年間で交流し、自学級の取り組みに反映させたり、内容を改善させたりする等、自身の取り組みを見つめ直し、新たな目標を見出すという活動は、「なかまキッズ」にとっての振り返りの機会となっている。また、学年間の話し合いの結果をボードにまとめて、全学年で共有したり、他学年からの意見やアドバイスをもらったりすることにより、自学級の取り組みに深まりや広がりを生む機会となっている。

イ 「代表委員会」への参加による児童会活動の内容改善

代表委員会に「なかまキッズ」が参加し、これまでの児童会活動をなかまづくり(異学年間の人間関係構築)の視点から見直す機会とした。「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」の話し合いにおいては、これまで、担当教員の提案で決められていたプレゼントや、会の内容を子ども目線で見直し、「1年生や6年生に喜んでもらえる」「お互いの仲が深まる」といった視点から意見を出し合うことで、会の設け方が改善された。「なかまキッズ」による「なかまづくりの視点に立った教育活動の見直し」を教員が価値付けることで、子どもたちの「自分たちの考えや力で楽しい学校をつくる」という意識が高まりつつある。



〈他学級・学年の取り組みを学び合う「キッズ会議」〉

② 縦割りグループやペア学年を核とした「ふれあい活動」の推進

ア 「ペア学年」(1・6年、2・4年、3・5年)によるふれあい行事 ※運動会(5月)、プール開き(6月)、日山登山(1月)
運動会ではペア種目として、1・6年「玉入れ」、2・4年「大玉転がし」、3・5年「台風の目」といった共同性を要する競技に協力して取り組んでいる。また、「プール開き」での共同種目や「日山登山」といった学校行事をペアで行うことで、上学年が下学年をサポートしたり、互いに応援し合ったりといった思いやりの心や感謝の心が育ち、関係性の深まりにつながっている。

イ 「縦割りグループ(なかよし班)」での「ふれあい遊び」「1年生を迎える会」「6年生を送る会」の実施

異学年で構成されたグループで、6年生をリーダーとしてグループみんなが楽しめて、しかも仲が深まるような活動をメンバーみんなで考え合っている。5年生は6年生からリーダー性を学び、中学年は上学年とともに下学年を思いやったり、ルールを教えたり、また1年生はグループのことを考えて我慢したり、わがまを控えたりする等、相手意識の高揚から、社会的な成長ぶりが窺えた。

昨年度までは、教員主導の取り組みであった「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」が、「絆づくり」の視点から、児童の思いや考えを反映させたものになり、プレゼントへの全員メッセージや、子どもたちなりの感謝の表し方を生かしたプログラムの内容へと高まっていった。



〈異年齢での活動を通して思い合いの心を育む〉

③ 学年や委員会主催の「ふれあいイベント」の実施

ア 学年単位での、当該学年と他学年間、及び全校生間の「絆を深めるイベント」の企画・運営

図工の造形遊びで制作した迷路(随所にミッションを設置)を活用し、友だちと協力してクリアするイベントを計画した学年や、全学年とふれあえるイベントを考えて、定期的なふれあいイベントを計画した学年など、子どもたちの主体性や創造性を発揮した取り組みがなされた。また、学年間、学級間で協働して企画・運営に当たる経験を通して、主催した学級や学年の絆も深められた。

イ 各委員会の特色を生かした「全校生が楽しく、快適に過ごせるためのイベント」の企画・運営

「栽培委員会」が「全校生を温かい心で迎えられたい」という思いで正門前を花で飾ったり、「図書委員会」が昼休みに全校生を対象にジャンボ絵本を使った読み聞かせをしたり、「生活委員会」が廊下や階段の安全な歩路を呼び掛ける表示を作成したりと、相手にとって「心地よい」「過ごしやすい」「楽しい気持ちになる」取り組みを委員みんなで考え合い、工夫し合い、協力し合って進んで取り組んだ。アの取り組み同様、委員間で協働して企画・運営に当たることで、主催した委員相互の絆も深められた。



〈メッセージと写真で綴られた心の交流アルバム〉

ウ イベントコーナーでの心の交流

イベント前にはコーナーに予告・宣伝ポスターを掲示したり、校内放送でお知らせしたりした。また、イベント後には、主催者と参加者双方のメッセージを掲示した。そこには、参加者からの感謝の思いが綴られていたり、自分たちの取り組みを喜んでもらったことに対する主催者の充実感が綴られている。事後の振り返りの場としてのメッセージ交換は、イベントを通じた相手意識の高揚につながった。

(2) 総括

1年間の取り組みであったが、子どもの意識の変容は、11月実施の「県学習状況調査質問紙調査」や1月実施学校教育評価の結果にも成果として表れている。

〈学校教育評価:全校児童、全教職員、全保護者対象〉

- ・「いじめのない温かい雰囲気のある学級・学校づくり」についての肯定的な回答…児童87%、保護者89%、教員100%
- ・「楽しく学校に通えている」に対する肯定的な回答…児童93.7%、保護者92.0%

〈県学習状況調査質問紙調査:5年生対象〉

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」(本校97.4/県96.5:「そう思う」が県平均より8.7ポイント高い)
- ・「学級では安心して自分の意見を言うことができる」(本校78.2/県70.5:「そう思う」が県平均より15.8ポイント高い)
- ・「学校に行くのは楽しい」(本校83.3/県76.9:「そう思う」が県平均より12.6ポイント高い)

また、県学習状況調査質問紙調査では、次のような評価結果も出ている。

- ・自分にはよいところがある(本校78.2/県70.9:「そう思う」が県平均より5.9ポイント高い)
- ・難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している(本校83.3/県78.2:「そう思う」が県平均より6.3ポイント高い)
- ・人の役に立つ人間になりたい(本校97.4/県94.6:「そう思う」が県平均より9.1ポイント高い)

「全校生にとって楽しい学校づくりが、仲間とともに工夫し、力を合わせて実現できた」という実感が達成感となり、自信となり、自己有用感となり、そして、より高い自分づくりをめざそうとするエネルギーにつながっていることが窺える。「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」に自身が参画できたという経験は、子どもたちにとっての「生きる力」を育むことができたことと確信している。